

経営比較分析表（令和元年度決算）

福井県 福井市

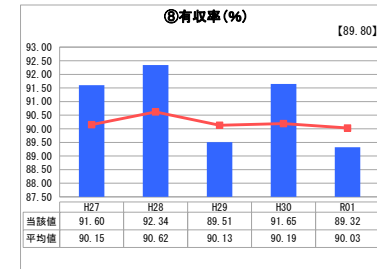
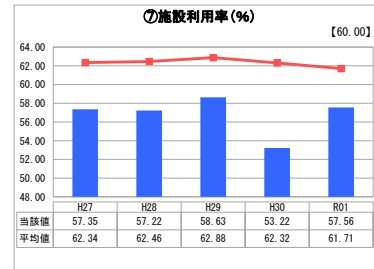
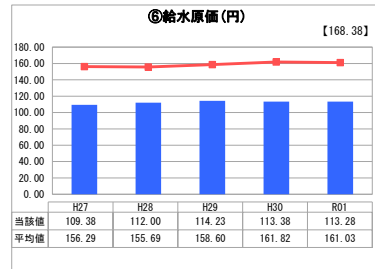
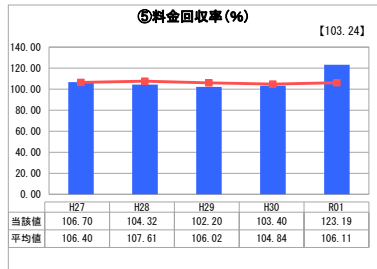
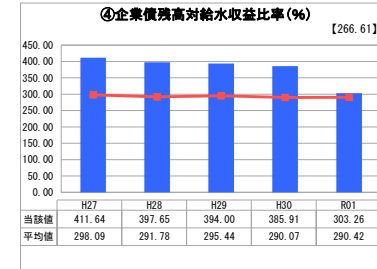
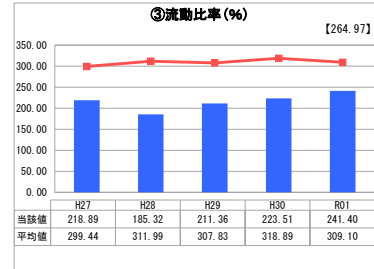
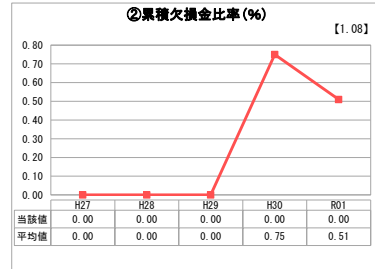
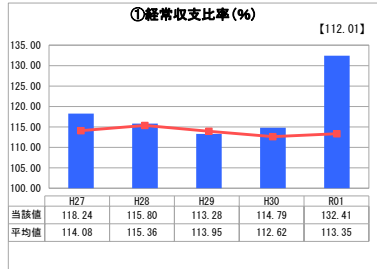
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ² 当たり家賃料金 (円)	
-	63.85	97.72	1,331	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
263,152	536.41	490.58
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
256,024	263.10	973.11

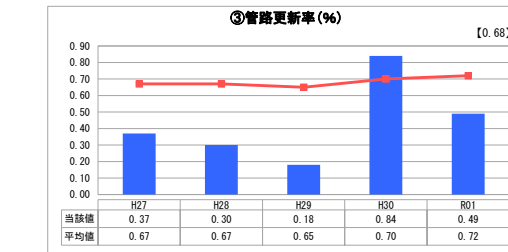
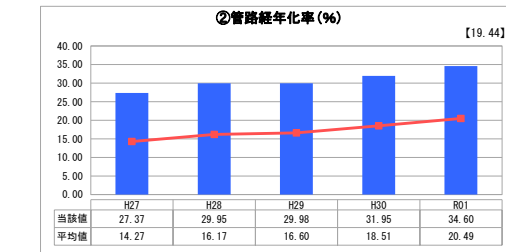
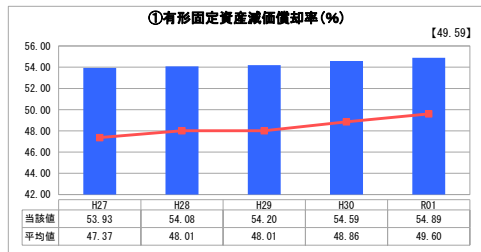
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率及び③流動比率、⑤料金回収率については100%を上回る水準を、②累積欠損金比率については0%を維持しており、これまで健全な経営を行っている。
 ④企業債残高対給水収益比率は、企業債残高の着実な減少及び水道料金改定により、類似団体平均と同程度の水準まで改善した。
 ⑥給水原価は類似団体平均を下回り、有収水量1㎡あたりの費用は低く抑えられている。
 ⑦施設利用率は類似団体平均に比べて低く、今後も人口減少に伴い低下が見込まれるため、施設の統廃合やダウンサイジングを検討している。
 ⑧有収率は前年度より2%以上低下したが、漏水調査を積極的に実施し、漏水箇所の特定と管の修繕等を行い、改善に努めている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は類似団体平均を上回り、有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却が徐々に進んでいる。
 ②管路経年率は類似団体平均を上回り、法定耐用年数を経過した管路を多く保有している状況ではあるが、着実に計画的に更新を進めている。
 ③管路更新率は類似団体平均を下回っている。本市の管路延長は2,000km以上あるため、更新率の飛躍的な改善は難しいが、今後も管路の重要度や優先度を判断し、計画的な更新を続けていく。

全体総括

水道事業の経営環境は、平成31年1月に約20%増の料金改定を行ったが、令和元年度の給水収益は前年度比13.6%増に留まり、人口減少や節水機器の普及により水需要が減少する厳しい状況となった。
 今後も、老朽化した施設の更新や耐震化に多額の財源が必要となることから、経営環境はますます厳しさを増していくと考えられる。
 こうした状況の中において、市民が将来にわたって、おいしく安心して利用できる水を供給するため、本市では令和元年度に「福井市水道事業ビジョン2020」を策定した。
 令和2年度以降は、この計画に基づき、最小の経費で最大の効果を上げられるよう、戦略的かつ柔軟な経営を目指していく。